



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

## 市原ロータリークラブ会報

第2418 回例会 2013 年 9 月 4 日(水) SAA(司会) / 小池会員 会報担当 / 梶内会員

事務局 五井グランドホテル 市原市五井 5584-1 TEL.0438-38-3535 例会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584-1



ENGAGE ROTARY  
CHANGE LIVES

- 点 鐘 市原 RC 会長 泉水孝夫
- ソング 君が代・奉仕の理想・4つのテスト唱和
- お客様 本日はごさいません
- 会長挨拶 市原RC会長 泉水孝夫

皆さんこんにちは。本日は白鳥さんに『世界ポリオ撲滅推進計画について』と言うテーマで卓話をお願いいたしました。ポリオ撲滅はRIおよびR財団でも重要なプログラムと位置付けられていますが、私からは1つの問題提起をさせていただきます。

現在使用されているワクチンは生ワクチンです。スポイトの様なもので子供の舌の上にワクチンを垂らしている写真が記憶にあると思います。この生ワクチンでは、100万人に1.4人の割合でポリオを発症してしまいます。欧米では早くからこの問題に対応して、不活化ワクチンに切り替えられました。日本でもこれに追従する形で現在は不活化ワクチンに切り替えました。ワクチン接種の方法は注射を使用するので、技術も予算もより一層必要となりますが、問題はそればかりではありません。その副作用です。100万人に5.3人が重篤な副作用を発症しています。重篤な副作用とは、入院が必要な状態です。

また、『ロータリーの友』で読まれた方もいらっしゃると思いますが、成人から発症するポストポリオシンドロームも重大な問題となってきています。

そう言う問題と向き合いながら、本日のお話を伺うと、また違った受け止め方が見えてくるかもしれません。私も興味を持ってお話を伺いたいと思います。

### ●幹事報告

- ①10月のプログラムが理事会承認されましたので、メールBOXにて配布いたします。
- ②今月は来週9/11 ガバナー補佐公式訪問、9/25 ガバナー公式訪問があります。会員皆様の出席をお願い致します。
- ③9月のロータリーレートは100円です。
- ④地区大会11/9(土)、11/10(日)東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート地区ゴルフ大会10/7(月)の案内が来ています。
- ⑤例会変更等の案内が来ています。後ほどメールにてご案内致します。
- ⑥地区行事予定
  - ・米山クラブ委員長セミナー 8/25(日)
  - ・ロータリー情報研究会 9/1(日)
- ⑦各委員会・小委員会を開いた場合は、幹事、事務局にも報告してください。場合によってはメーキャップになるかもしれません。

### ●委員会報告 米山記念奨学会小委員会

第2790地区クラブ米山記念奨学会委員長セミナーについて報告します。

8月28日(日)にクロスウェーブ幕張にて米山記念奨学会委員長セ

ナーが開催されました。当クラブからは常泉小委員長の代理で篠田が出席致しました。セミナー開催の挨拶で関口徳雄ガバナーより「米山記念奨学事業をもっと知ろう」という方針が発表されました。セミナーは3部構成で①「米山学友会の活動について」第2790地区米山学友会 副理事長 楮笑(ちよしょう)雲(うん)さんによる卓話、②「米山委員長の役割」2013-2013年 第2790地区 米山記念奨学会委員長 平野一隆さんによる卓話、③「世界に羽ばたけ米の奨学生」(公財)R米山記念奨学会 理事 2009年2013年 第2790地区 米山記念奨学委員長 安増惇夫さんによる卓話がありました。その中で、第2790地区 米山記念奨学会委員長 平野一隆さんによる卓話について、抜粋して報告致します。米山記念奨学会とは、活動内容の啓蒙、寄付年間活動の実行、米山豆辞典の活用により内容を会員皆様に御理解を頂き、ロータリークラブの中のプログラムに寄付は多いが、唯一顔の見える寄付であり、学生に直接渡せる寄付です。昨年度は全体で3,800万円程の寄付を頂き、3,790万円が寄付されました。寄付の現状を米山のHP等で御理解いただき、本年度の各クラブ1人当たり15,000円を目標に寄付をお願い致します。内容の御理解を頂くには、現役奨学生による卓話をさせていただきます。そして委員長の役割、地区からのお願いとして米山事業を御理解いただき理解の上、寄付を会長、幹事と協力の上お願い致します。とお話がありました。市原ロータリークラブの会員の皆様につきましても、内容を御理解の上、米山奨学会への寄付をお願い致します。ちなみに昨年度個人平均寄付額は8,130円でした。

### ●本日のメインプログラム

## 『本当に終わるのか? ポリオ』

2013.9.4

白鳥 政孝



ロータリーはポリオ撲滅にかかわりを持ってから実に28年経過しています。いくら史上最大のプロジェクトとはいえ、はたしてポリオの撲滅は本当に実現できるのかという疑問があります。

いまポリオの撲滅まで「あと少し」「This Close」のところにいる現況の説明と、さらに撲滅には多くの資金を必要とするので、

その醸金のために皆さんに寄付や募金をお願いすることです。それでは順を追って説明します。

まずポリオとは何かを簡単に説明します。ポリオとは小児麻痺のことです。人間の腸に宿ります。糞から経口感染し、身体麻痺の深刻な後遺症をもたらす伝染病であります。5歳以下の幼児に感染しやすく、その後遺症は治療で治すことはできない恐ろしい感染症です。

予防には、経口ポリオワクチンの接種を厳重な監視(管理)の下に一斉に予防接種をしなければなりません。さらに、ワクチンの製造・投与・輸送・保存・管理などに多くの資金と人手を必要とするので国た地域社会を挙げての取り組みが肝心となります。

後遺症に苦しむ幼気な子どもです。このように身体四肢の麻痺が起り、治療で治すことはできないのです。呼吸困難にもなります。リスボンで開催された国際大会の友愛の広場の展示場のポリオのブースにあった鉄の肺です。心臓の麻痺によってこの医療器具に頼らなければ生きていけない生命維持装置で、鉄の肺ともいわれています。経口ワクチンのことですが、これはポリオウィルスの毒性を弱めたポリオの生ワクチンで、この開発は、ポリオ撲滅に大きな武器となっています。生ワクチンの経口投与の特徴は、同時に広範囲にわたる地域での予防接種を可能にし、医師でなくても子供に投与するので費用が安く済む画期的なワクチンであります。

日本では1960～1961年にかけて北海道を中心にポリオは大流行し、多くの子供が犠牲になりました。今から50数年前のことです。当時は小児麻痺といわれ四肢が麻痺する恐ろしい感染症であったことが思い出されます。輸入していたポリオの不活化ワクチンがなくなり、まだ未承認・未検定であった経口生ワクチンを旧ソ連から緊急輸入して、生ワクチンの一斉投与を実施しました。その結果、6500人のポリオの患者が翌年には100人以下に激減(ゲキゲン)しました。

その後、生ワクチンを使って予防接種を継続した結果、日本ではポリオの発症が見られなくなり、2000年にはWHOにポリオ絶滅の報告をして以来野生株のポリオは発生しておりません。

しかし、この生ワクチンには副作用があり、100万人に2～4人の確率で手足がマヒすることがあります。野生ポリオを根絶した国では副作用のない生ワクチンから不活化ワクチンに替えています。日本でもようやく昨年9月に不活化ワクチンに切り替えました。母親に安心感を与えています。これもロータリアンの関係機関への働きかけの賜であります。

ロータリーのポリオ撲滅活動は、34年前の1979年、フィリッピンにおいて600万人の子供にポリオワクチンの一斉投与を行いました。これはロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ最初のプロジェクトであり、大きな成果をあげました。

それを受けて1985年に国際ロータリーは「ポリオ・プラス計画」を発表し、翌年1986年から5年間にわたる募金のキャンペーンを始めました。当時の日本のロータリアンは積極的に取り組み、40億円の目標額に対して49億円の寄付金を集めています。さらに、2009年にはゲイツ財団の寄付に連動して「ロータリー2億ドルチャレンジ」実施しています。



この写真は2010年1月8日に行われたインドNIDの現場であります。NIDとは「国民一斉予防接種」のことです。現地ロータリアンがスラム街の要所・要所にブースを設けて子供に生ワクチンを投与しているところです。保健婦、町の役員など総出で力を出し合っている。ブースのないところではライトバンのドアを開けてブース代わりにして投与しています。保健婦や母親、姉に支えられてワクチンの投与を受けています。ワクチンは3～4回接種しなければならなのです

ブースの近くにある街角です。周りの建物は堅固で整っています

が、一歩裏や舗装のないところに行くと埃が舞い、ゴミが散乱し、ビニールが溝をせき止めてしまい、悪臭が漂い、犬、牛、ヤギなどが人間と一緒に、ごった返しています。たぶんこのような立派な建物は建築時にはスラム街ではなかったと思われます。各都市と共通の現象を感じました。首都であるニューデリーからわずか45キロのところ。世界で35万件あったポリオの症例が、2010年は650例、昨年の2012年に223症例とポリオ患者は激減(ゲキゲン)しています。

現在、ポリオ常在国はパキスタン、ナイジェリア、アフガニスタンの3ヶ国となっています。

最近の情報によりますと、今年の5月14日現在、世界で33の発症例でしたが、8月27日の発表では214件と急増しています。内訳はアフガニスタン4件、パキスタン25件、ナイジェリア43件、ソマリア126件、ケニア13件、エチオピア1件、合計192件。隣国のエチオピアの発生は2006年以来です。アフリカのソマリア、ケニアで急増した発症は難民キャンプ地であり、ワクチンを接種されていない子どもに発症しています。緊急対策前の感染による発症で緊急対策後では新たな感染経路は見つかっていません。このようなアウトブレイクな発症に対して緊急対策は取られているので蔓延はないということです。

8/22にこの発症の急増に対してR財団委員会は50万ドルの補助金を支出することを承認した。

ポリオ常在国での発症が71と少なくなっているのがポリオ撲滅への最大のチャンスと捉えて、世界の関係団体は、総力を挙げてポリオ絶滅に向けて邁進しています。このチャンスを逃がしては、ポリオの絶滅は永遠に不可能となります。ロータリーにおいてもポリオ撲滅を「緊急かつ最優先事項」に掲げて全力で取り組み撲滅に邁進しています。

ポリオ撲滅可能の根拠として次の点が挙げられます。

**第1の理由**；今年の4月ノーベル賞受賞者、公衆衛生専門家、大学長など世界の400名を超える科学者が名を連ねて検討した結果「ポリオ根絶に関する科学的宣言」を発表しました。

それによると2018年までにポリオの絶滅宣言は可能であるとしています。この宣言によってポリオは撲滅できると関係者は勇気付けられ、撲滅の自信を深めています。

**第2の理由**；ポリオの常在国は政治情勢や劣悪な衛生状態、貧困、因習などが絡み合って徹底した予防接種がスムーズいかない難しい状態にあり、資金不足とあいまって撲滅運動が足ふみ状態になっていました。ナイジェリアでも「経口ワクチンを飲むと子供を産めなくなる」という噂や迷信から抜けて、今では全力を挙げて予防接種活動に取り組めるようになってきました。これは撲滅への明るい兆しです。

**第3の理由**；インドにおける成功例がポリオ撲滅活動に勇気と希望を与えています。毎日75,000人の子供が生まれ、その子に3回以上の予防接種をしなければならぬので、インドはポリオの根絶は最も困難な国であると言われていました。しかし、インドでは200万人の人を動員し、政府や民間から拠出された資金によって国を挙げてのポリオ撲滅キャンペーンに取り組んだ結果、昨年2月ついにポリオを一掃するに至っていることです。インドでの事例を見るにつけ、ポリオ撲滅には官民挙げての強い活動と資金の投入が、いかに大事であるかということでもあります。

**第4の理由**；1967年ごろには年間1,000万から1,500万人の人が感染し、うち200万人が亡くなり、数百万人が後遺症に苦しみ、失明になったという恐ろしい天然痘が撲滅されているということでもあります。ワクチンの開発と接種によって天然痘が20数年かかりましたが、

1980年には世界から撲滅されています。これもポリオ絶滅への可能性に大きな望みを与えています。

**第5の理由：**今年に入り6月25日現在ポリオの発症例が71と大幅に激減していることです。発症数の少ない今こそポリオを撲滅の絶好のチャンスであります。

**第6の理由：**国際社会がポリオ撲滅に大きな関心を寄せて、従来にまして各国政府や民間がポリオ撲滅への資金の拠出を考えていることです。また世界保健総会においても支援体制を強化しています。

日本政府では2012年までに4億5千万ドルを寄付し、世界で3番目の援助国となっています。また2011年10月24日の世界ポリオデーにはパキスタン、アフガニスタンに9億円の援助を発表しています。2011年8月には政府とビル&メリンダ・ゲイツ財団と共同でパキスタンに撲滅資金として49億9,000万円の借款を行う取り決めをしています。

2012年末には田中作治RI会長やRI関係者が、超党派のポリオ撲滅議員連盟の議員9人と会談し、ポリオ撲滅について政府へ働きかけました。今年3月には政府はパキスタンに260万ドル、ナイジェリアに220万ドル、チャドとコンゴ民主共和国とニジェールに350万ドルの追加援助を決めています。2013年のGPEI(世界ポリオ撲滅推進計画)へ日本政府の寄付額は830万ドルになっています。

いままでに国際ロータリーは12億ドルをポリオ撲滅活動に投じています。これは世界がポリオ撲滅に投じた資金の12%に当たります。しかも民間から寄せられた寄付額の51%を占めています。さらに数万人におよぶロータリアンがワクチン投与にボランティアとして参加しているように、

ポリオ撲滅運動においてロータリーの粘り強い活動は世界の注目を浴びています。

ポリオが撲滅される寸前にきているこの機会を無にすることはできません。わずか60セント(約60円)で、1人の子どもをポリオから守ることができるのです。ロータリーは、従来にもまして資金の捻出に努力を重ねなければなりません。

皆さまにおかれましては、ポリオ撲滅に重大な関心抱いて頂き、DDFの寄贈、ポリオプラスへの寄付、募金活動というんな方法を通じてポリオ撲滅資金の醸金をお願いいたします。

リスボンの国際大会でゲイツ財団はポリオ撲滅の支援に2018年の5年間に5億ドルの寄付額を保証しています。撲滅運動はポリオとの戦いであり少しも息を抜くことはできません。ポリオを完全に絶滅しなければ、今後10年間で20万人の子供がポリオの脅威にさらされると予想されています。また、ここで根絶できないと永久にポリオの根絶は不可能になります。

ポリオ撲滅が達成されるならば、2035年までに400億～500億ドルの医療費の節約が期待できると予測されています。



この写真はあと少しでポリオが絶滅するということを表しています。いわばロータリアンの合言葉です。ポリオは絶滅の寸前まで来ています。

今までに世界では95億ドルを投入してきました。ここでやめると今まで投入した資金は無に帰します。一気に絶滅させなければなりません。リスボンでの国際大会の手提げ袋に END POLIO NOW が印刷され、大勢のロータリアンが手に持ち、会場には END POLIO NOW のフラッグがいたる所に垂れ下り、ロータリーが最優先課題としているポリオ撲滅の気迫がひしひしと伝わってまいりました。END POLIO NOW の赤いバッジをつけ、お互い「あと少し」のサインをして笑顔で顔き合っていました。

地区のポリオ撲滅資金の地区の目標が1人20-25ドルとなっていますが、1人30ドルを達成すれば他の地区の平均に達します。ぜひご理解を賜りまして、この1人30ドルのポリオ使途指定寄付をお願い致します。

寄付やチャリティ行為は、ロータリーの史上最大のプロジェクトであるポリオ撲滅推進の一役を担い、自らが参加していることであります。どうかご出席の皆さまにおかれましては、ポリオ撲滅活動はロータリーの緊急かつ最優先事項であることを今一度ご確認いただきまして、DDFの寄贈、ポリオプラスへの寄付、募金活動、さらにはポリオ撲滅支援ウェブサイト [www.endpolionow.org/ja](http://www.endpolionow.org/ja) をご覧になり、「世界最大のCM」に参加してあらゆる手段を講じて「緊急かつ最優先事項」であるポリオ撲滅資金の拠出をお願いします。

今、ポリオ絶滅への条件が整っています。資金を供給してポリオ撲滅宣言の歴史的快挙に立会い、世界の人々と喜びを分かち合いたいと思います。

ご清聴ありがとうございました

## ●ニコニコ・ソーリー

### 宮地会員

先日8/29の横浜夜例会の時に1人で楽しんでしまいました。気分を悪くされた方には大変失礼いたしました。

### 小池会員

先週の移動例会で家内と共に楽しませていただきました。又、当日の歯科医師会のゴルフコンペ(柴 C.C.、すみれコース)で優勝する事が出来、二重の喜びでした。

### 白鳥会員

箕輪さん、川島さんありがとうございました。おかげさまで、パワーポイントを使用する事が出来ました。

### 泉水会長、篠田幹事

本日、白鳥会員による卓話、ありがとうございました。今月は、ガバナー公式訪問があります。会員皆様には例会への出席をお願い致します。

## ●結婚・誕生祝

結婚：西村(美)会員、檜垣会員

誕生：西村(美)会員

## ●出席報告

前々回確定 73.13% 本日出席者 26名

本日欠席者 20名 本日出席率 56.52%

●点 鐘 市原 RC 会長 泉水孝夫